

たの実り かのせせらぎ やまの恵みで まちづくり

第4期（平成27年度～平成29年度） 高山ブロックまちづくり計画



祖式町下瀬戸地内から望む高山ブロックのシンボル「大江高山」

平成27年3月

高山ブロックまちづくり委員会

目 次

第1章 第4期計画の策定にあたって	1
第2章 高山ブロックまちづくりの現状	1
1. ブロックの概要について	2
2. 人口・世帯数について	2
3. 産業について	4
4. 道路・交通・通信について	7
5. 福祉・医療について	7
6. 歴史・文化・教育について	9
第3章 高山ブロックの特性	11
1. 地域の誇る資源と地域の抱える課題	11
2. まちづくりの方向性（キーワード）	11
3. これまでの地域での取り組み	12
4. 今後の課題	13
第4章 まちづくりの基本方針と事業展開	14
1. まちづくりの基本方針	14
2. まちづくりに向けた事業展開	14
第5章 まちづくりの事業内容	15
1. 豊かな高山地域の創造	15
2. 住みよい高山地域の創造	16
3. 基礎（基本）事業	18
4. 第4期事業リスト	19

第1章 第4期計画の策定にあたって

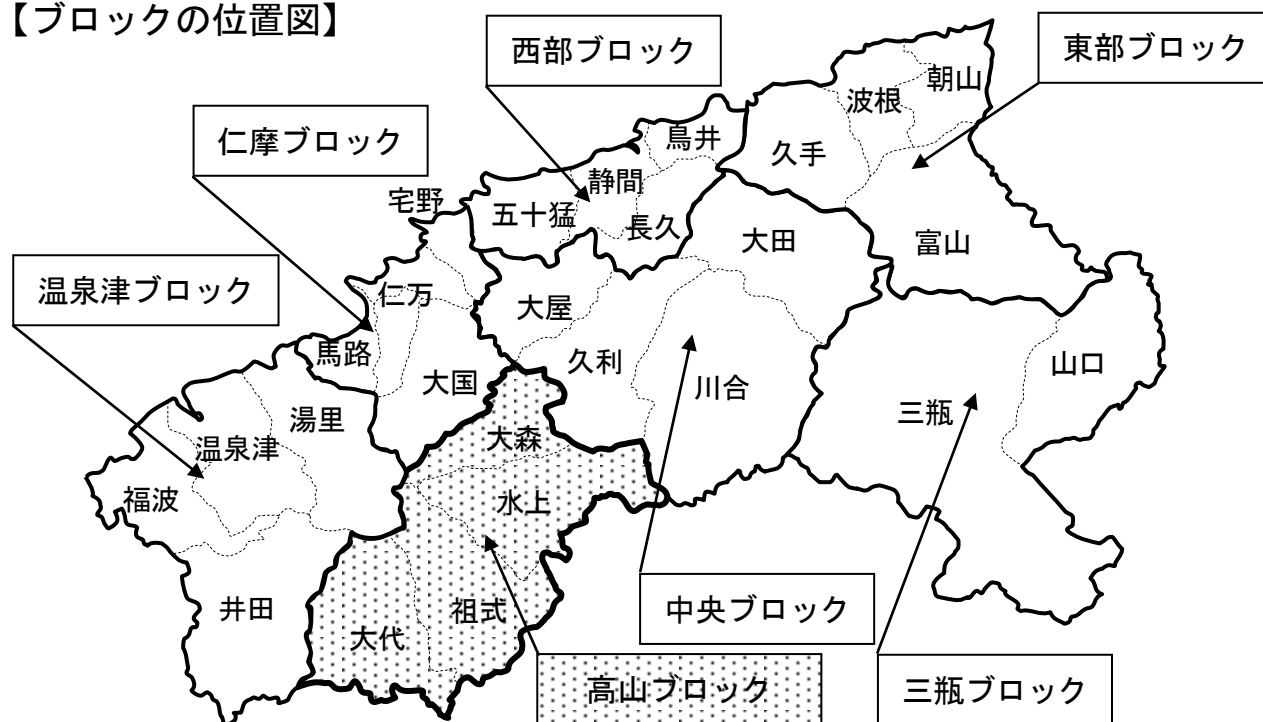
大田市では平成18年度より、市民と行政が共に手を取りあい、地域課題解決に向けた取り組みを行う「協働によるまちづくり」を推進してきました。地域住民の積極的な市政への参加と協働を推進するために設置された「高山ブロックまちづくり委員会」は、同年度に「まちづくり計画」を策定し「たの実り かわのせせらぎ やまの恵みで まちづくり」をキャッチフレーズに「豊かな高山地域の創造」と「住よい高山地域の創造」を目指して活動してきました。

この第4期計画は、これまでの3期（9年間）の活動を踏まえ、高山地域の「魅力」・「宝」を守りながら様々な地域課題を解決するための今後の取り組みの指針とするものです。

計画期間は平成27年度から29年度の3カ年です。必要があれば適宜見直しを行っていきます。

第2章 高山ブロックまちづくりの現状

【ブロックの位置図】



1. ブロックの概要について

(1) 位置・面積・地勢

高山ブロックは、大田市の南西部に位置し、大江高山と仙ノ山（銀山）の二山をシンボルとする大森町、水上町、祖式町、大代町の4町からなる地域です。

ブロックの面積は約66km²で、その大半は山林原野で占められ、一級河川「祖式川」と二級河川「忍原川」および「銀山川」が山間地を縫うように走っており、この流域に耕地が開けています。

(2) 気候・自然

気候は日本海型気候に属し、比較的温暖な地域です。冬季には積雪が30～50cmに達することもあります。根雪期間はありません。

大江高山は標高808mの古火山の秀峰で、ブロック内の各地から望むことができます。登山も可能な身近な「山」として、県外からの登山客も増加しています。また、三瓶山に並ぶ希少動植物の生息地であり「ミスミソウ」や大田市自然環境保全条例で指定されている「イズモコバイモ」、「ギフチョウ」など、保護の必要な植物群生地を含むものとして注目されつつあります。

一方、仙ノ山（537m）は、石見銀山として知られる山で急峻ではありませんが、頂上から日本海始め大森、水上を望むことができます。坑道跡などの採掘跡と宅地跡の存在を示す竹林などが多く見られます。

さらに、石見銀山遺跡の中核ゾーンとして史跡指定を受けた矢滝城山（634m）は、その名前の由来となった祖式川上流にある「矢滝」とともに祖式町の象徴として親しまれています。

良質の瓦粘土が採掘される水上町では「瓦製造」が盛んで、粘土採掘跡地と水田の間を流れる小規模な河川の上流部では、清流を利用して「わさび」の栽培もされています。

(3) 沿革

昭和の大合併により誕生した大田市における高山ブロックの沿革は、昭和31年の第三次合併により大森（水上を含む）、祖式を編入し、また、昭和32年の第4次合併により大代（川本町の一部である新屋、大家本郷および北佐木）を編入し、現在の高山地区の4町を形成しています。

2. 人口・世帯数について

人口および世帯数とも減少傾向で推移しており、平成22年国勢調査では、ブロック内総人口は、1,770人、732世帯となっています。平成17年国勢調査と比較して、人口で12%、世帯数で7%の減少となっています。

また、65歳以上の老年人口は総人口の4割を超えています。また、14歳までの年少人口および生産年齢人口（15～64歳）の比率については、ともに市平均よりも低くなっています。特に、祖式町、大代町はその傾向が顕著であり、少子・高齢化が進んでいるといえます。

<人口と世帯数>

【地区別人口・世帯数】

各年10月1日現在（単位：人、世帯）

地区別	平成17年				平成22年				増減 H22/H17	
	人口			世帯数 x	人口			世帯数 y	人口 b/a	世帯数 y/x
	総数 a	男	女		総数 b	男	女			
大森町	449	207	242	187	405	189	216	185	90.2%	98.9%
水上町	616	289	327	214	566	274	292	203	91.9%	94.9%
祖式町	403	188	215	164	349	160	189	153	86.6%	93.3%
大代町	539	242	297	219	450	199	251	191	83.5%	87.2%
ブロック 小計	2,007	926	1,081	784	1,770	822	948	732	88.2%	93.4%
旧大田市 小計	32,337	15,079	17,258	11,463	30,364	14,245	16,119	11,196	93.9%	97.7%
大田市 合計	40,703	18,897	21,806	14,804	37,996	17,761	20,235	14,312	93.3%	96.7%

資料：国勢調査

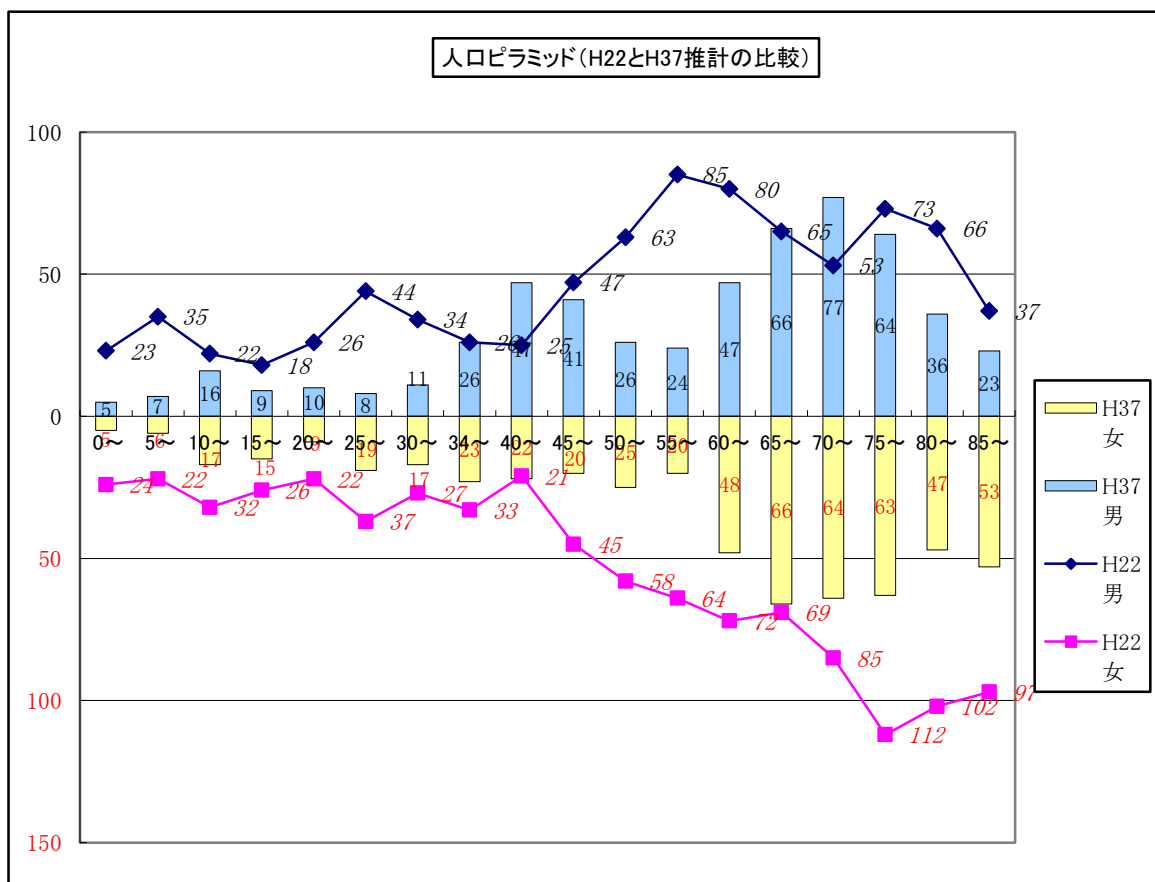
ブロックの将来推計人口では、平成27年では1,526人、平成32年では1,288人、平成37年では1,082人と予測され、今後15年間で約4割の人口が減少することになります。

<ブロック将来推計人口>

(人口：人)

平成17年 国調人口		平成22年 国調人口		平成27年推計		平成32年推計		平成37年推計				
				人口	対H22	人口	対H22	人口	対H22			
男	926	男	822	男	730	△11%	男	631	△23%	男	543	△34%
女	1,081	女	948	女	796	△16%	女	657	△31%	女	539	△43%
計	2,007	計	1,770	計	1,526	△14%	計	1,288	△27%	計	1,082	△39%

(※将来推計人口は、平成17国勢調査と平成22年国勢調査より、「コーホート変化率法」と「婦人子ども比率」を使用し推計)



3. 産業について

人口の減少、特に生産年齢人口の減少を反映して、就業人口は減少傾向で推移しており、平成22年国勢調査では837人となっています。

産業別の就業割合は各地域により特色が見られます。大森町は第一次産業の従事者割合が極めて低く、他の地域より第三次産業の従事者割合が高くなっています。これは、大森町には耕地面積が極めて少ないことと、町並みに商業の集積が見られることによると考えられます。

また、水上町には地場産業である瓦工場の集積が見られ、瓦工場の雇用吸収力により、大森町、水上町、祖式町の第二次産業従事者の割合を引き上げていると考えられます。

全体的に第三次産業従事者の割合が高くなってきている現状があります。

第一次産業従事者が多い地域は高齢化率も同時に高い地域です。第一次産業は高齢者に支えられている状況であり、祖式町、大代町の就業率にその傾向をみることができます。

大森町以外の地域がほぼ同じ産業構造をしているのに対し、大森町はブロック内のほかの町とは異なる産業構造をしています。他の地区の生産年齢人口が下がっているのに対し、大森町は生産年齢人口をほぼ維持していることも特筆すべきことであるといえます。

<就業者人口と産業別就業人口>

人口：人

産業(3部門)別就業者・割合、従業上の地位(2区分)別割合

平成22年

地 域	産業3部門別 就業者			従業上の地位別割合	
	平 成 2 2 年				
	第1次	第2次	第3次	雇用者	自営業主・ 家族従業者
大田市	1,985	4,765	11,130	80.4	19.6
[旧大田市]	1,563	3,764	9,163	81.2	18.8
(大森町)	5	55	132	73.1	26.9
(水上村)	53	86	133	80.2	19.8
(祖式村)	28	57	74	77.4	22.6
(大代村)	67	56	91	62.6	37.4

平成17年

大田市	2,468	5,309	11,804	76.9	23.1
[旧大田市]	1,945	4,184	9,707	77.7	22.3
(大森町)	11	67	143	74.2	25.8
(水上村)	61	107	130	76.5	23.5
(祖式村)	49	69	79	69.7	30.3
(大代村)	84	81	97	58.8	41.2

平成12年

大田市	3,010	6,544	11,332	74.3	25.7
[旧大田市]	2,438	5,188	9,312	75.0	25.0
(大森町)	10	89	127	75.2	24.8
(水上村)	78	135	125	72.2	27.5
(祖式村)	85	91	89	63.0	37.0
(大代村)	108	92	109	57.6	42.4

資料：国勢調査

(1) 農業

ブロックの全域が中山間地であり、耕作面積は少なく、1戸当りの耕作面積も大田市平均を下回っている状況です。特に大森町は地形的に耕作地がほとんどなく、農業従事者も非常に少ない町です。

その他の町も中山間地ではありますが、圃場整備も行われており、耕作条件は整備されているといえます。しかし、高齢者が支えている農業という現状があり、ここ数年、耕作地の減少と荒廃地の拡大が続いており後継者の育成が課題となっています。特に荒廃地の拡大は鳥獣被害の増大に結びつき、農作物への被害とともに農家の生産意欲喪失など、大きな問題となっています。このような中、日本型直接支払交付金事業に取り組むところもあり、担い手育成、農業の受委託など集積化をすすめる取り組みも行われています。また、水上町、祖式町、大代町にまたがる220haの大邑地区国営農地開発事業による農地があります。地域の特産品づくりをめざした作付けの取り組みや、消費者交流などが行われています。

<農家数・面積>

平成22年2月1日現在

旧町村名	農家数（戸）				農家人口（人）			経営耕地面積（a）			
	総数	専業	兼業		総数	男	女	総数	田	畑	樹園地
			第1種	第2種							
大森	3	1	-	2	5	3	2	139	103	21	15
水上	49	17	4	28	168	85	83	3,743	3,231	452	60
祖式	39	15	-	24	123	60	63	3,723	3,594	129	-
大代	58	22	3	33	192	87	105	6,290	4,516	1,774	-
小計	1,191	344	91	756	4,287	2,157	2,130	117,861	93,710	20,026	4,125
合計	1,436	428	110	898	5,094	2,567	2,527	140,285	113,379	21,594	5,312

注：販売農家＝経営耕地面積が30アール以上又は、農産物販売金額が50万円以上の農家。

(2) 工業

資料：2010年世界農林業センサス

水上町には地場産業の石州瓦工場の一大集積が見られます。石州瓦は貴重な地域資源の1つであり、市も支援をしていますが、長引く不況の影響で出荷額は減少傾向で推移しています。大森町には、医療福祉・衣服等の分野で他にはないオンリーワン企業が数社存在しています。祖式町には宮大工の伝統が残っており、古くより大工の多い町として知られています。大代町には大田市内でも数少ない造り酒屋が存在しています。

(3) 商業

人口減少による購買力の低下、経営者の高齢化により商店そのものが少なくなってきており、ブロック内の商業は厳しい状況が続いていますが、石見銀山遺跡が世界遺産に登録された大森町の商業地では今後発展していく可能性を秘めています。

(4) 観光

高山ブロックには、平成19年7月に世界遺産に登録された石見銀山遺跡があります。登録後は観光客が大幅な伸びを見せていますが、平成20年をピークに減少しています。今後、減少幅を少なくする工夫が必要です。

また、大森町以外の地域も石見銀山遺跡のアクセスルート上に存在しているため、増加した観光客によるメリットが考えられます。水上町はシッカク踊り、水上町花田植、祖式町はシャギリ、矢滝城山、大代町には田植え囃子、石見神楽、大江高山など、「名勝」「遺跡」「文化・伝統」をそれぞれの町が持っており、これらを活用し観光客を呼び込む工夫が必要となっています。

<観光客入込状況（観光動態調査）>

（単位：人）

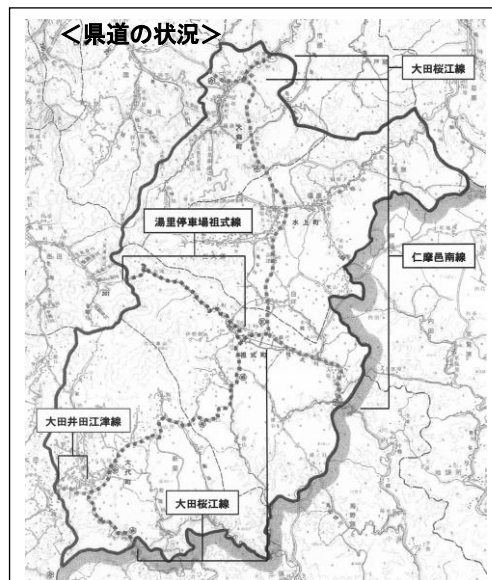
観光地	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
石見銀山	813,200	560,200	504,800	498,700	432,200	511,600
三瓶山	598,400	579,500	592,000	613,200	587,800	673,542
大田市海岸	113,800	106,200	104,700	26,900	6,730	9,300
計	1,525,400	1,245,900	1,201,500	1,138,800	1,026,730	1,194,442

資料：統計おおだ平成25年度版

4. 道路・交通・通信について

(1) 道路の整備状況

高山ブロックは、主要地方道仁摩邑南線・大田桜江線が南北をつなぎ、一般県道及び広域農道、市道が連結しています。大田桜江線の祖式・大代間については、カーブが多く、幅員が狭い部分が多いため、高齢の運転者が多い地域としては大変危険です。また、冬季における降雪量の多い地域でもあるため、現在整備が進められています。



特に、平成19年7月に世界遺産に登録された石見銀山遺跡は多くの観光客が訪れています。大森町へのアクセス道の整備や温泉津町（町並み保存地区）も含めた遺跡全体の一体性を確保するためにも、今後も引き続き本地域の道路網の整備は重要となっています。

(2) 交通機関の状況

公共交通機関は石見交通線の路線バスのみです。ブロック内には、大森・大家線（川上～バスセンター）、川本線（祖式～バスセンター）、仁万線（大森～仁万駅）の3路線があります。市中心部への所要時間は、大代からは約1時間、大森からは約30分かかります。利用状況は、地域内の人口減少の他、一日の便数が大森・大家線6便、川本線5便、仁万線5便と比較的整備はされているものの自宅から停留所までが遠く、特に高齢者の利用の妨げとなり利用は減少しています。

(3) 通信の状況

ブロック内の通信の状況については、CATVの整備に伴い、難視聴地域の解消が図られるとともに、高速インターネット環境が整備されつつあります。一部に携帯電話が繋がらないエリアはありますが、快適な情報通信を享受できるという定住条件の一つが整備されることとなり、こうした条件を活かし、地域の活性化を図る必要があります。

5. 福祉・医療について

(1) 保育施設の状況

高山ブロックは他のブロックに比較して少子化と高齢化の傾向が著しく、ブロック内の公立保育園は水上町の市立水上保育園の一園で、大森町については小規模な無認可幼稚園、大代町については家庭的保育事業所としていずれも地元運営協議会等において行われてきました。しかし、大代町については平成27年3月末をもって廃園となります。保育環境の充実、若者定住の必須条件となっており、地域全体で、子どもを産み、育てやすい環境整備が求められています。

◆保育所園児数

平成26年4月1日現在

町別	施設名	区分	定数	在園児数
大森	大森幼稚園	無認可	20	2
水上	水上保育園	大田市立	20	24
大代	大代幼稚園	家庭的保育事業	5	5

資料:大田市子育て支援課

(2) 医療の状況

市街地から遠距離にある当地域内の医療機関については、大森町は平成24年7月から、水上町は平成18年度から、大代町は平成24年度から医療機関がなくなり、高齢者等の交通手段の確保が困難な住民にとっては切実な問題となっています。そのような中、従来から医療機関のあった祖式町に、平成26年新たに歯科医院が新設され地域の展望が明るくなりつつあります。

しかし、安心して暮らせる地域医療体制の整備、拡充が今後も求められています。

(3) 福祉の状況

高齢比率の高い当地域では、高齢者に対する住民主導型の福祉ボランティア活動も盛んで、各町では高齢者、障がい者世帯への福祉弁当の配布や、まちづくりセンターを拠点に月1～2回の頻度で、高齢者が参加できる活動が行われています。また、祖式町、大代町では地域物産販売拠点「いっぷく所」「よっちゃん菜」への農作物の供給に高齢者が参加する取り組みが行われているなど、各町では高齢者の知恵や力を生かしつつ地域で支え、健康で生きがいをもって住めるまちづくりが行われています。

<福祉関係の統計数値>

◆福祉関係の統計数値

平成26年4月1日現在

区 分	大森	水上	祖式	大代	ブロック計	大田市計
世帯数 a	194	230	165	209	798	16,096
人口 b	407	538	351	442	1,738	37,568
65歳以上人口 c	158	200	182	219	759	13,449
高齢化比率 d=c/b	38.8%	37.2%	51.9%	49.5%	43.67%	35.8%
独居老人数 (=世帯数) e	54	54	52	70	230	3,166
独居老人比率 (対世帯数) f=e/a	27.8%	23.5%	31.5%	33.5%	28.82%	19.7%
独居老人比率 (対人口) g=e/b	13.3%	10.0%	14.8%	15.8%	13.23%	8.4%
独居老人比率 (対65歳) h=e/c	34.2%	27.0%	28.6%	32.0%	30.30%	23.5%
6歳未満人口 j	15	19	14	12	60	1,573
幼年者比率 k=j/b	3.7%	3.5%	4.0%	2.7%	3.5%	4.2%

資料:大田市市民課 社会福祉課

6. 歴史・文化・教育について

(1) 歴史・文化

高山ブロックは、古代の「大家八反田遺跡」、「白坏遺跡」から始まり、中近世の産業遺跡として世界遺産に登録された「石見銀山遺跡」からの銀運搬の街道として栄えてきたといえます。

石見銀山の歴史に関わる史跡は、大森町に集中していますが、その関連の石碑や伝承などもブロック内に点在しています。

また、県指定の無形文化財に指定されている「シッカク踊り」をはじめとして、「花田植」(田植え囃子)、「石見銀山巻き上げ節」、「シャギリ」や「石見神楽」など、多様な民俗芸能も伝承されており、文化財愛護少年団や保存会によって維持・継承されています。

(2) 教育

高山ブロック内の教育施設としては、小学校が大森小学校、高山小学校の2校、中学校が第三中学校1校あります。これらの小学校、中学校においては学校と地域社会の連携・融合による特色ある教育を進めています。全体的に児童・生徒数の減少傾向にあります。

また、学校・家庭・地域が連携した事業や社会教育を専門的におこなう施設として高山公民館が設置されています。公民館では、地域内外の交流を主眼とした生涯学習活動支援事業や、家庭教育支援事業などの講座を数多く開催し、地域の絆を深めるとともに、まちづくりを担う人づくりに取り組んでいます。

そのほか、ブロック内には各町にまちづくりセンターがあります。まちづくりセンターでは、自然保護活動や民族芸能の伝承などを通して地域課題の解決に向けた活動や、魅力あるまちづくり活動の支援などに取り組んでいます。

<児童数・生徒数の推移>

◆小中学校の児童・生徒数及び学級数、幼稚園児数の一覧

①小学校

毎年5月1日現在

小学校名	上段:学級数、下段:児童数			
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
大森小	3	4	3	3
	17	21	20	19
高山小 ※	6	5	5	6
	34	41	41	40
大代小 ※	3			
	6			
高山ブロック計	12	9	8	9
	57	62	61	59
大田市小学校計	124	122	116	120
	1,787	1,794	1,770	1,733

※ 平成24年4月1日、大代小と高山小が統合し、新高山小が誕生

②中学校

毎年5月1日現在

中学校名	上段:学級数、下段:生徒数			
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
第三中	3	3	3	4
	39	31	26	25
大田市中学校計	48	48	46	45
	937	922	918	895

資料:大田市教育委員会総務課

<まちづくりセンターの概況>

◆まちづくりセンターの概況			
施設名 所在地 (大田市)	構造 建築年	面積 収容人数	備考
大森まちづくりセンター 大森町イ490	木造平屋 明治21年	915.8㎡ 200名	H2改築・H4増築 町並み交流センターと供用
水上まちづくりセンター 大田市水上町三久須21	木造平屋 昭和52年	270.5㎡ 200名	H3・H11増築、H26耐震補強
祖式まちづくりセンター 祖式町546-1	鉄骨平屋 平成8年	519.8㎡	「ピラたかやま」と併設 H11.10に祖式保育園から移管
大代まちづくりセンター 大代町大家1579	鉄骨平屋 昭和55年	344.5㎡ 100名	

資料:大田市地域振興課

第3章 高山ブロックの特性

第2

章の高山ブロックの現状から、4期計画策定にあたりあらためて「地域の誇る資源（強み）」と「地域の抱える課題（弱み）」を整理し、これらからまちづくりの方向性を示すキーワードを抽出しました。

1. 地域の誇る資源と地域の抱える課題

	地域の誇る資源	地域の抱える課題
地勢・自然	<ul style="list-style-type: none"> ■高山ブロックは県道沿いにあり、広島市の玄関口に位置する。 ■大江高山を中心に貴重な自然（動植物、景色、空気等）が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■川の生物（シジミ、ニナ、ホタル）が少なくなった。
人口・世帯数		<ul style="list-style-type: none"> ■人口減少が進んでいる。（少子高齢化、嫁不足、若者不足等） ■空き家が多い。（空き家も地域資源にならないか）
産業	<ul style="list-style-type: none"> ■地場産業がある。（瓦工場、造り酒屋、農産物、宮大工等） ■農産物（米、さつまいも、そば） 	<ul style="list-style-type: none"> ■特産品がない ■仕事（職場）、お店、遊び場が少ない。 ■農業の高齢化（休耕田、有害鳥獣）
基盤		<ul style="list-style-type: none"> ■インフラ整備（上下水道、道路・交通、情報・通信）が遅れている。
福祉・医療	<ul style="list-style-type: none"> ■助け合い制度、福祉タクシー制度がある。 ■元気な高齢者（人材）が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ■病院が遠い。
歴史・文化・教育	<ul style="list-style-type: none"> ■石見銀山遺跡とその関連史跡が豊富に残っている。 ■伝統芸能が継承されている。（田植え囃子、神楽、シッカク踊り、盆踊り等） ■教育環境がよい。（学校施設の充実、教育後援会がある） 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■地域のまとまりが良い。 ■地域に対する現状認識や危機感を持っている人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ■故郷や自分に自信が持てない。 ■課題解決に向けた活動や組織がない。 ■まちづくりへの意欲を失いつつある。 ■防災・安全に対し不安がある。



2. まちづくりの方向性（キーワード）

<まちづくりのキーワード>

- ◎地域資源活用（地域の魅力・宝の再発見）
 - お金の落ちるシステムづくり（趣味では続かない）
 - 荒廃地・鳥獣被害対策（ブロックや全市での取り組みが必要）
 - 自然保護と環境整備（貴重な資源を守る）
 - 活発に交流する地域づくり（交流人口の拡大）
 - 歴史・文化・伝統芸能の継承（地域の宝を守る）
- ◎人口定住の促進（特に若者定住は大きな課題）
 - 高齢者の活躍の場づくり（高齢者の知恵や力を活かす）
 - 子育てしやすい環境づくり（若者定住の条件）
 - 安心・安全・心豊かに暮らせるまちづくり（住みよいまち）
- ◎ブロックの輪による地域づくり_（推進組織の設立）

3. これまでの地域での取り組み

平成18年度に策定した「まちづくり計画」に基づき、これまで計画の柱である「豊かな高山地域の創造（地域資源）」と「住みよい高山地域の創造（人口定住）」を目指して取り組んできました。

第1期～3期、9年間の総括としてこれまでの取り組みを振り返ってみました。

(1) 豊かな高山地域の創造について

平成19年度から「高山アンテナショップ（ふれあい広場）」を継続して実施しています。地域資源を活かした品々を販売するとともに高山ブロックの様々な情報発信を行うことができました。特産品には至っていませんが、石見銀山遺跡を訪れた観光客へのおもてなしと4町揃ってのよい交流の場となっています。

高山ブロック内で実施する「人を集めるイベント」として、4町では伝統芸能の他、天領さん・大森会場、水上町花田植、祖式町夏祭りイベント、大代町都市とふるさとを結ぶ交流会など、まちを挙げての開催が継続しており、地域外からも多数の参加があり、活力ある地域づくりに取り組んでいます。

一方、鳥獣被害対策について、高山ブロックにおいては、猿、猪等による農作物の被害が頻発しており荒廃地拡大の要因にもなっています。研修会と駆除事業の取り組みにより地域住民の認識も深まっています。

また、荒廃地対策では、竹の繁茂により荒廃が進むのを防ぐと同時に、竹粉碎機を使用した竹チップを堆肥とし農作物栽培に活かす取組が始まりました。

(2) 住みよい高山地域の創造について

高齢化や核家族化等により、空き家が年々増加傾向にある高山ブロックにおいては、空き家を地域資源として捉え「空き家調査」を実施しましたが、登録・活用には及ばず思うように進んでいない状況です。一方、水上町では「UIターン者祝い金制度」が平成18年度から継続して行われています。地域住民による地元でのUIターン者フォローアップも定住に結びつける大切なカギとなります。

また、助け合い制度として、福祉弁当や除雪作業などの取り組みが継続されてきています。

高齢者の知恵を活かした日用品づくりについては、高齢者の知恵を後世に伝承するため、わらじ、ぞうり、しめ縄等を作り販売しているグループがあります。講習会もまちづくりセンター中心に開催されており、技術の伝承はもとより高齢者が活躍する場を提供することにより高齢者の生きがいに繋がっています。

若者定住の条件でもある子育て支援のためのシステムづくりについては、子育て環境を充実するため、水上町で学童保育「しごんぼクラブ」が運営されるなど、地域全体で子育てを行う環境整備が進みつつあります。

そのほか、高山ブロックでは都会に在住する出身者との交流が続いており、地域の情報発信に繋がっています。大代町では「体験交流施設きずな館」が平成26年にオープンし、地域おこしと都市とふるさとを結ぶ活動が期待されています。

(3) 基礎（基本）事業について

ブロックの輪による地域づくりを目指し、各町のまちづくり推進協議会を立ち上げる取り組みをしました。それにより、設立されたまちづくり推進協議会等がブロックにおけるまちづくり活動にも尽力しています。

町 別	まちづくり推進協議会等の名称
大森町	大森町自治会協議会
水上町	水上まちづくり推進協議会
祖式町	祖式町元気なまちづくり協議会
大代町	大代まちづくり推進協議会

4. 今後の課題

(1) 豊かな高山地域の創造について

- ① 「特産品づくり」について、それぞれの地域において小さいながらも取り組みの芽生えがあり、今後支援が必要となっています。
- ② 鳥獣被害対策について、地域住民の認識も深まっていますが、今後も知識を高めるための取り組みと関係機関（市・県・国）への働きかけが必要です。
- ③ 高山ブロックの資源の一つである「竹」を活用し、堆肥として農作物栽培に活かすなどの取り組みが必要です。
- ④ 高齢化や鳥獣被害等により今後も荒廃地増加が予想されます。引き続き高山ブロックの水田保全の取り組みが必要です。

(2) 住みよい高山地域の創造について

- ① 年々増加傾向にある空き家について、地域住民と関係機関（市・県・国）との連携により何らかの取り組みが必要です。
- ② 交流人口の拡大とU I ターンの促進を図る手段の一つとして、高山の地域資源を活かした体験プログラムによりまちの活性化を目指す取り組みが必要です。
- ③ 人口減少と高齢化が著しい高山ブロックの将来推計人口は、5年後には約200人減少となる厳しい状況です。そのため、まちづくりへの意欲を失いつつあります。人口減少に歯止めをかけるための取り組みとまちづくりへの意識醸成が喫緊の課題となっています。

(3) 基礎（基本）事業について

高山ブロックまちづくり委員会がブロック共有の地域課題解決に向けた取り組みの中で設立した各町のまちづくり推進協議会等が、4町の集合体である組織として完全統一することは容易なことではなく、ブロック共同での地域づくりを目指すことは、今後も大きな課題です。

第4章 まちづくりの基本方針と事業展開

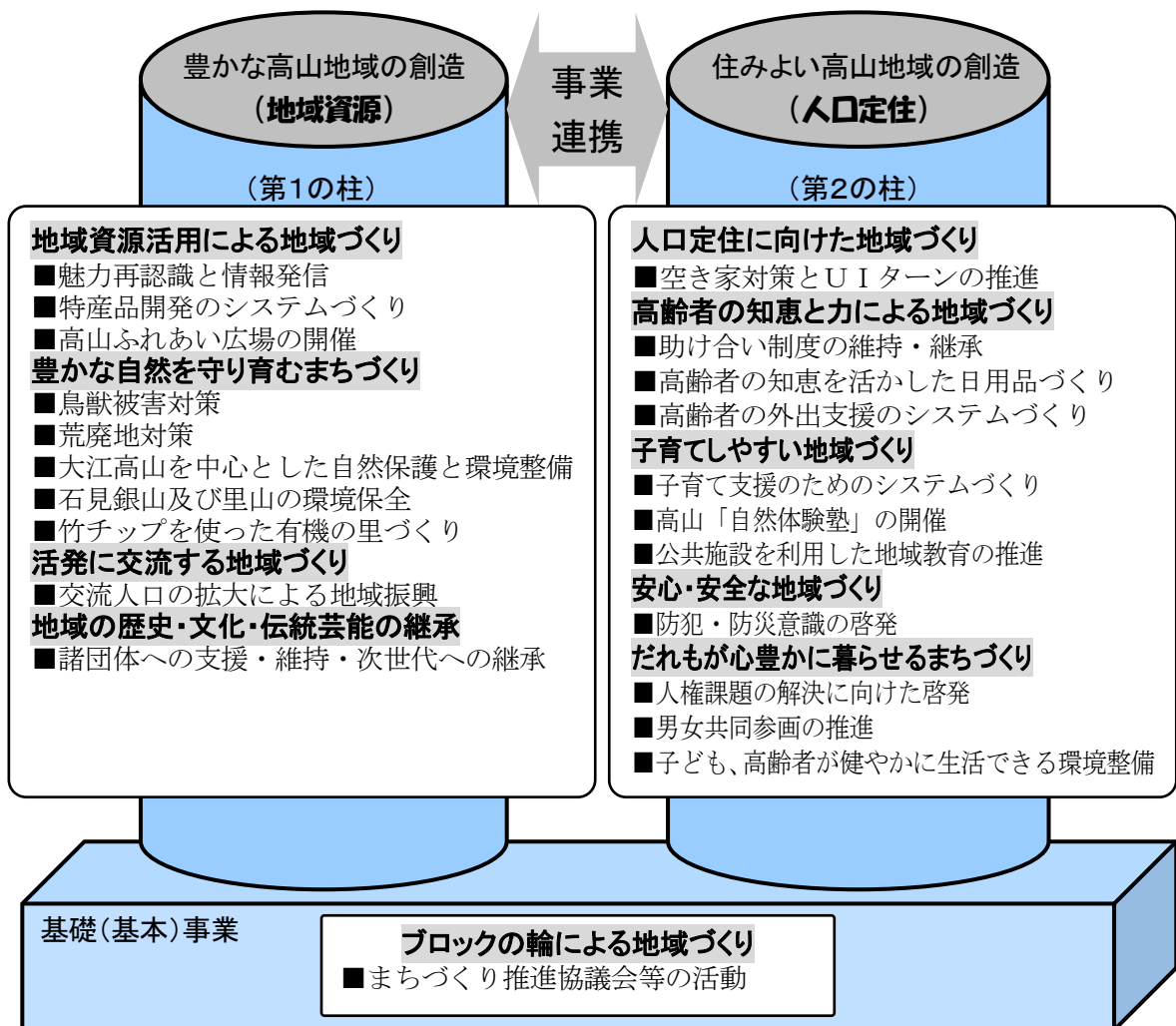
1. まちづくりの基本方針

豊富な地域資源を活用し“豊かで”“住みよい”高山ブロックの創造に向けて

まちづくりの第1の柱として「地域資源」を掲げます。高山地域の4町には、大江高山を代表とする自然、石見銀山遺跡に関連する歴史文化、地場産業ともいえる農業や窯業等、また、それを支える住民など、豊富な「地域資源」を有しています。今後のブロック全体のまちづくりを推進していく上で、他に誇るべきこれらの地域資源を最大限活用し「豊かな高山地域」を目指します。

まちづくりの第2の柱として「人口定住」を掲げます。高山地域は、大田市の中でも、人口減少、少子高齢化が急速に進行している地域です。これらは、地域の活力の低下を招くばかりでなく、地域経済や集落の維持にも大きな影響を及ぼす深刻な課題となっています。現在、住んでいる住民にとって、また、UIターン者にとっても、魅力を感じる「住みよい高山地域」の創造に向け、環境整備に取り組んでいきます。

2. まちづくりに向けた事業展開



※表中の事業項目は、中期的な将来を見据えて構築しており、第5期(H30年度～)以降に検討・実施すべき事業も含まれている。

第5章 まちづくりの事業内容

本章では、「第3章 高山ブロックの特性」「第4章 まちづくりの基本方針」、平成24年度に実施した「高山地域住民の地域活動・意識（思い、願い）調査」と「まちづくりアンケート」の分析から、高山ブロックに必要と考えられる事業を記載しています。その内、第4期（平成29年度まで）で取り組む事業は、本章「第4期まちづくり事業リスト」で整理しています。

○高山ブロックまちづくりの基本理念

高山ブロックのだれもが、「しあわせ」や「ゆたかさ」を感じ、将来に向けたクオリティライフ（生活の質）の維持・向上のための環境整備を行います。

1. 豊かな高山地域の創造

(1) 地域資源活用による地域づくり

① 魅力の再認識と情報発信

高山ブロックには、自然をはじめ、歴史・文化、産業、そこに暮らす住民等、豊かな「地域資源」がたくさんあります。これらを有効活用し、今後のまちづくり、地域づくりに活かすことが重要となっています。まず、地域住民が自ら地域資源を再認識し、市ホームページや広報誌によりブロック内外へ積極的に情報発信します。

② 特産品開発のシステムづくり

現在、大代町等でソバ、餅等の生産・販売を行っていますが、拡大のためには、今以上の原材料が必要になってきます。ブロック全体に生産者を求めるなど、特産品開発のための「組織」「仕組み」構築に努めます。

③ 高山ふれあい広場の開催

世界遺産石見銀山遺跡のある高山ブロックにおいて、地域の特産品を販売するとともに、観光客を高山ブロックへ誘導する案内機能や情報発信を行う拠点として、「高山ふれあい広場」を開催します。

(2) 豊かな自然を守り育むまちづくり

① 鳥獣被害対策

荒廃地拡大の要因として、鳥獣被害による心理的、物理的な影響があり、農家の生産意欲喪失につながっています。一部の町や集落ではなく、地域全体の認識、対策を講じるため、協議会の設立、調査、研究、被害防止・駆除等の取り組みを行います。

② 荒廃地対策

水田の保全について、大代町飯谷地区で、組合法人により集落営農の取り組みがなされ、農地の保全に効果をあげています。他地域においても、集落営農ができる

よう検討します。また、休耕田を利用して、米、いも、ソバ等のオーナー制度やトラスト（信頼・信用）活動として、都市部住民に対し会員を募集し、種まきや収穫時期に合わせ交流イベントも開催したいと考えています。

③大江高山を中心とした自然保護と環境整備

高山ブロックを代表する山、大江高山（808m）には、大田市自然環境保全条例に指定された「イズモコバイモ」や「ギフチョウ」などの希少な動植物が生息しています。大江高山を中心とした周辺の貴重な資源を大切に守り、次世代に引き継ぐことが、私たちの責務です。

④世界遺産石見銀山遺跡及び里山の環境保全

遠い昔から引き継がれてきた石見銀山遺跡の自然や暮らし、高山ブロックの美しい風景、人々の生活の営み、これら貴重な里山の環境をこれからも守っていきます。

⑤竹チップを使った有機の里づくり

粉砕した竹チップは、マルチ被覆材に、粉末にすれば土壌改良材、堆肥、家畜飼料など、幅広い用途に使用できます。化学肥料や農薬を控えることにより、高山ブロックの「有機の里づくり」をめざします。

(3) 活発に交流する地域づくり

①交流人口の拡大による地域振興

あらゆる機会を利用し、高山ブロックの交流人口を拡大することにより、地域の振興を図ります。

現在行われている大代町の都市住民との交流を継続することにより、その促進とふるさとの情報発信を行います。

(4) 地域の歴史・文化・伝統芸能の継承

① 諸団体への支援・維持・次世代への継承

高山ブロックには、世界遺産石見銀山遺跡などの史跡や花田植え、シッカク踊り、シャギリ、神楽、田植え囃子などの多くの伝統芸能が保存・伝承されています。

地域の文化を大切に守り伝えている諸団体への支援と維持に努めるとともに地域の宝である歴史・文化・伝統芸能を守り、次世代へ継承します。

2. 住みよい高山地域の創造

(1) 人口定住に向けた地域づくり

①空き家対策とUIターンの推進

高山ブロックは大田市においても、人口減少、少子・高齢化が進んだ地域です。これらの課題に対応するために「空き家」を地域資源として活用し、UIターン者を増やす取り組みが必要となっています。人口定住に向け、「空き家調査」を実施するとともに、情報発信や関係機関との連携に努めます。併せて、UIターン者を受

け入れるための地域の意識醸成や、U I ターン者をフォローする組織の養成に努めます。

(2) 高齢者の知恵と力による地域づくり

① 助け合い制度の維持・継承

現在、各町で実施している「助け合い等の制度」を維持・継続していきます。また、制度やサービス内容の実態把握とサービスの提供者の確保に努めます。

② 高齢者の知恵を活かした日用品づくり

高齢者の知恵を後世に伝承し、いきいき活動を推進するため、昔の日用雑貨（わらじ、ぞうり、しめ縄等々）の作業グループづくり、技術伝承教室の開催、販売を行います。

③ 高齢者の外出支援のシステムづくり

交通手段を持たない高齢者の引きこもりを防止し、買い物や通院の移動手段を確保するために、「あいのりタクシー制度」の拡充、「デマンド型輸送」の実施に向けた取り組みを行います。

(3) 子育てしやすい地域づくり

① 子育て支援のためのシステムづくり

若者定住の条件として子育て環境の充実は重要です。ボランティアによる放課後児童対策の拡充を目指します。

② 高山「自然体験塾」の開催

都会に在住する孫世代の出身者との交流プログラムを通じ、故郷の地域資源の再評価につなげるとともに、交流人口の拡大、情報発信、Uターンの促進を図ります。

③ 公共施設を利用した地域教育の推進

高山ブロック内にある学校、諸施設（焼物窯、炭焼き窯等）をブロックの共有資産とし、地域教育を推進します。

(4) 安心・安全な地域づくり

① 防犯・防災意識の啓発

高山ブロックは、犯罪の少ない地域です。引き続き安心・安全な地域づくりに努めます。また、未曾有の大災害となった東日本大震災、各地での豪雨災害等、近年、災害は大規模、多様化しています。私たちの大事な命や財産を守るため、防災意識の啓発や研修に努めます。

(5) だれもが心豊かに暮らせるまちづくり

① 人権課題の解決に向けた啓発

あらゆる差別や偏見をなくすために、大田市人権尊重のまちづくり条例に基づき、女性、障がい者、同和問題などの様々な人権課題の解決に向けた啓発に努めます。そして、地域住民だれもが心豊かに暮らせる地域づくりを目指します。

② 男女共同参画の推進

家庭、職場、地域等、社会のあらゆる分野における、男女共同参画の推進に努めます。

③ 子ども、高齢者が健やかに生活できる環境整備

家庭、学校、地域、関係機関・団体等が協力し、次代を担う子どもたちが、健やかに育つ環境づくりに努めます。

また、高齢者が社会の一員として受け入れられ、積極的に地域の活動に参加し、いきいきと生活できる環境整備に努めます。

3 基礎（基本）事業

(1) ブロックの輪による地域づくり

① まちづくり推進協議会等の活動

各町の「まちづくり推進協議会等」がブロックの連携を図りながら地域振興を図ります。

4 第4期事業計画リスト

事業名	第4期 (H27～29年度)					
	事業計画			新・継	備考	
	内容	H27	H28			
1. 豊かな高山地域の創造						
(1)地域資源活用による地域づくり						
①魅力の再認識と情報発信	◆大森町昔の映像DVD、「みなかみの歴史」、「祖式方言かるた」、「大代町の歴史」を活用 ◆どがどがブログ「高山だより」情報発信				H19～継続	H27-29 0予算
②特産品開発のシステムづくり	◆特産品づくりへの支援 ◆高山ふれあい広場への出店				H18～継続	H27-29 0予算
③高山ふれあい広場の開催	◆仮設ショップ販売(地域の特産品販売・情報発信) ◆4町交流	○	○	○	H19～継続	
(2)豊かな自然を守り育むまちづくり						
①鳥獣被害対策	◆学習会開催。知識の共有	○	○	○	H27再度実施	H19～22 実施
②荒廃地対策	◆休耕田活用(銀貨草育成)	○			H26～継続	
③大江高山を中心とした自然保護と環境整備	◆大江高山の自然保護、環境整備				H25～継続	H27-29 0予算
④世界遺産石見銀山遺跡及び里山の環境整備	◆景観保全(銀貨草育成)	○	○	○	H26～継続	
⑤竹チップを使った有機の里づくり	◆講習会開催	○			H25～継続	
(3)活発に交流する地域づくり						
①交流人口の拡大による地域振興	◆都市住民との交流				H19～継続	H27-29 0予算
(4)地域の歴史・文化・伝統芸能の継承						
①諸団体への支援・維持・次世代への継承	◆伝統芸能保存・伝承				H19～継続	H27-29 0予算
2. 住みよい高山地域の創造						
(1)人口定住に向けた地域づくり						
①空き家対策とUIターンの推進	◆空き家調査	○			H27再度実施	H21・22 実施
(2)高齢者の知恵と力による地域づくり						
①助け合い制度の維持・継承	◆まごころ会活動(大森) ◆助け合い制度活動(水上) ◆福祉担当活動(祖式・大代)				H19～継続	H27-29 0予算
②高齢者の知恵を活かした日用品づくり	◆高山ふれあい広場への出店	○			H27新規	
③高齢者の外出支援のシステムづくり	◆福祉タクシー活動(水上町)				H19～継続	H27-29 0予算
(3)子育てしやすい地域づくり						
①子育て支援のためのシステムづくり	◆学童保育「しごんぼクラブ」(水上町)				H20～継続	H27-29 0予算
②高山「自然体験塾」の開催	◆都市とふるさとを結ぶ交流会(出身者三世代交流紙すき・そばうち体験)				H27新規	H27-29 0予算
③公共施設を利用した地域教育の推進	◆三中登り窯活用検討				H28新規	H28 0予算
(4)安心・安全な地域づくり						
①防犯・防災意識の啓発	◆防犯・防災意識啓発活動の準備			○	H29～	
(5)だれもが心豊かに暮らせるまちづくり						
①人権課題の解決に向けた啓発	◆研修会に開催に向けた検討	○	○	○	H27～	
②男女協同参画の推進	◆研修会に開催に向けた検討	○	○	○	H27～	
③子ども、高齢者が健やかに生活できる環境整備	◆研修会に開催に向けた検討	○	○	○	H27～	
3. 基礎(基本)事業						
(1)ブロックの輪による地域づくり						
①まちづくり推進協議会等の活動	◆まちづくり推進協議会等の活動				H18～継続	H27-29 0予算